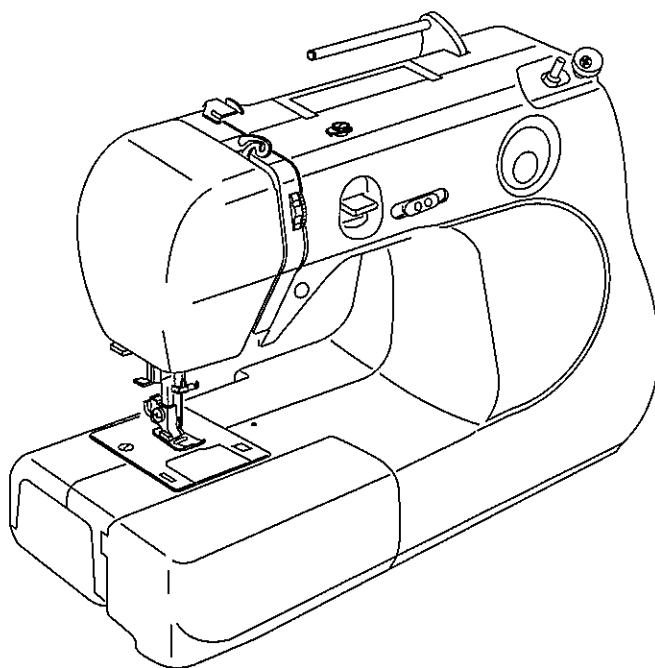


ご使用のしおり

《取扱説明書》



JANOME

安全上のご注意

- ◆ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- ◆ここに示した注意事項は、ミシンを安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
- ◆お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。
- ◆このミシンは、日本国内向け家庭用です。 For use in Japan only.

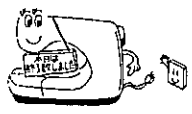
危害・損害の程度を表わす表示

 警告 この表示の欄は「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。	 注意 この表示の欄は「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。
--	---

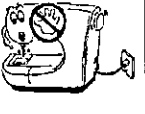
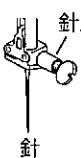
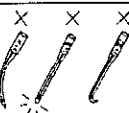
本文中の図記号の意味

	△記号は、気を付けていただきたい「注意」の内容です。 図の中には具体的な注意内容を表示しています。(左図の場合は一般的な注意)
	⊘記号は、行ってはいけない「禁止」の内容です。 図の中には具体的な禁止内容を表示しています。(左図の場合は分解禁止)
	●記号は、必ず実行していただく「強制」の内容です。 図の中には具体的な指示内容を表示しています。(左図の場合は一般的な強制)

警告 感電・火災・けがの恐れがあります。

 必ず実行 一般家庭用、交流電源 100 V でご使用ください。	 以下のような時は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 ・ミシンのそばを離れるとき ・ミシンを使用したあと ・ミシン使用中に停電したとき 
--	--

注意 感電・火災・けがの原因となります。

 分解禁止 お客様自身での分解はしないでください。 	 必ず実行 針及び押さえは、確実に固定してください。また、押さえは、ぬいに合ったものをご使用ください。 針が押さえにあたり、けがの原因になります。
 接触禁止 ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針・針止め・はずみ車・天びん・糸巻き軸などすべての動いている部分に手を近づけないでください。   針  はずみ車  天びん  糸巻き軸	 必ず実行 ミシン操作時は、不安定な場所では行わないでください。また、面板などのカバー類を閉じてから操作してください。
 禁止 プラグ受けに糸くずや、ほこりがたまるようにしてください。	 必ず実行 電源プラグを抜くときは、コードを引っ張らず電源プラグを持って抜いてください。
 禁止 ぬい中に布を無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。針が曲がり、針折れの原因になります。	 以下のことをするときには、電源スイッチを切って電源プラグを抜いてください。 ・針、針板を交換するとき ・ミシンのお手入れを行うとき
 禁止 曲がった針や、針先のつぶれた針はご使用にならないでください。 	 必ずプラグを抜く ミシンに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてお買い上げの販売店にて点検・修理・調整をお受けください。 ・正常に作動しないとき ・水に濡れたとき ・落下などにより破損したとき ・異常な臭い・音がするとき ・電源コード・プラグ類が破損、劣化したとき
 禁止 このミシンを使用するときは、付属の専用電源コードを使用してください。 付属の電源コードは、このミシン以外の電気製品には使用しないでください。	
 注意 お子様がご使用になるときや、お子様の近くでご使用される時は、特に安全に注意してください。 	
 注意 不用意にスタート・ストップボタンを押すと、針やはずみ車が動き、けがの原因になりますので十分注意してください。	

目次

各部のなまえ	2
標準付属品	2
フリーアーム	2
押さえの交換	2
電源のつなぎ方	3
スタート・ストップボタン	3
速さの調節	3
押さえ上げ	4
模様の選び方	4
返しぬいレバー	4
下糸の準備	5
上糸の準備	6
直線ぬい	7
ジグザグぬい	7
ジグザグぬいたち目かがり	7
トリコットぬいたち目かがり	8
シェルタック	8
直線三重ぬい	8
まつりぬい	8
ボタンホール	9
針の取り扱い	10
糸調子の調節	10
ミシンのお手入れ	11
ミシンの調子が悪いときの直し方	12

ここが便利になりました

- ゆっくりスタート ぬい始めは、いつもゆっくりで安心です。(3 ページ)
- 返しぬいスタート 忙しかった返しぬいも、あわてる必要はありません。
返しぬいが終われば、自動的に止まります。(4 ページ)
- 安全装置機能 かまなどの糸がらみなどで、ミシンに負荷がかかったとき、
自動停止機能がついて安心です。(12 ページ)

おとり扱いについてのお願い

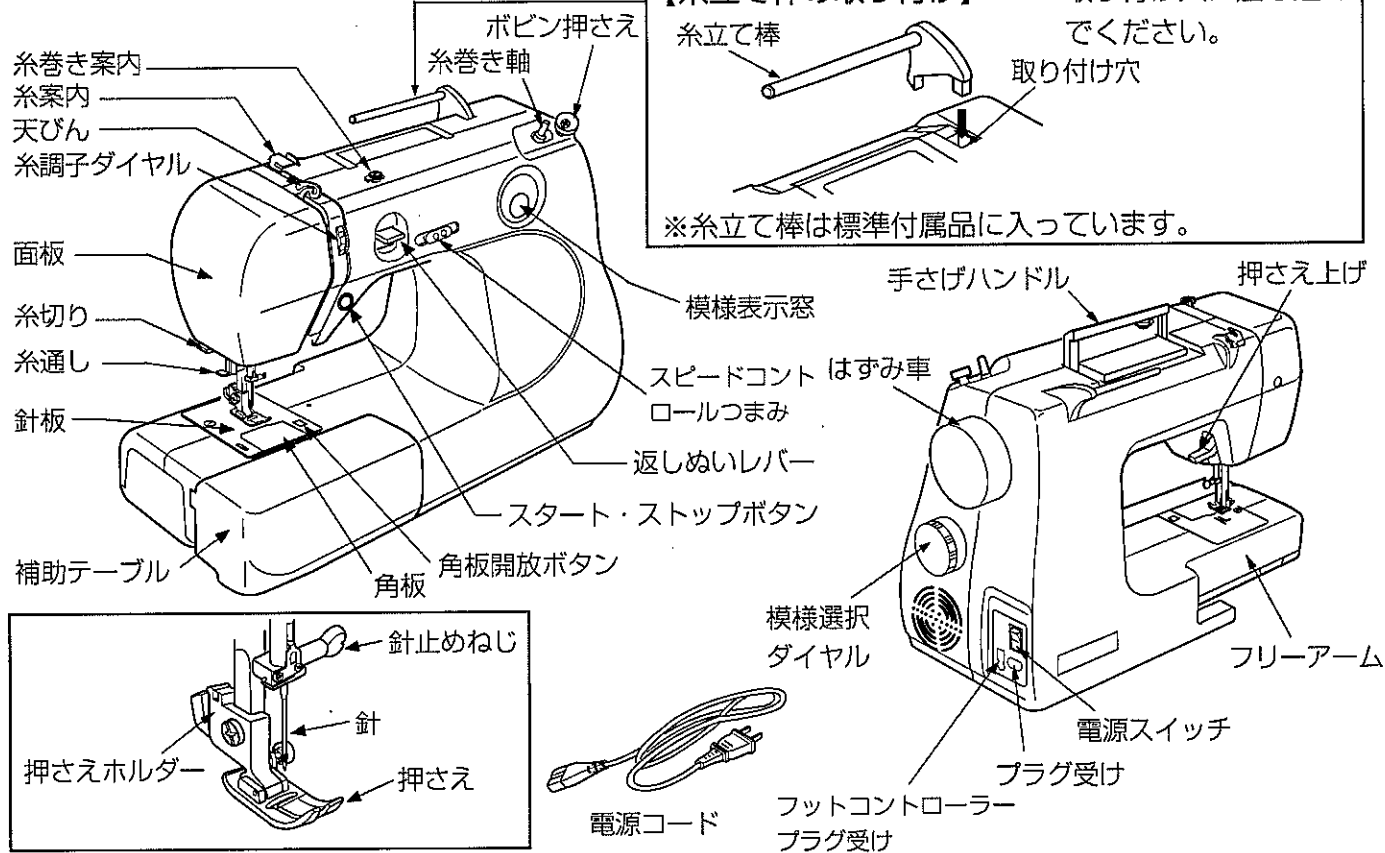
◇ご使用前に

- ① ほこりや油などで、ぬう布を汚さないように、使う前に乾いたやわらかい布でよく拭いてください。
- ② シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対に使用しないでください。

◇いつまでもご愛用いただくために

- ① 長時間日光に当てないでください。
- ② 湿気やほこりの多いところは避けてください。
- ③ 落としたり、ぶつけるなど衝撃を与えないでください。

各部のなまえ



標準付属品

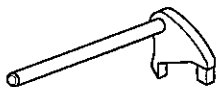
補助テーブルに収納されています。



ボビン



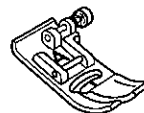
ドライバー



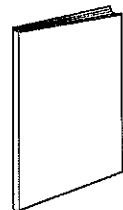
糸立て棒



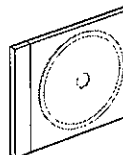
糸こま押さえ



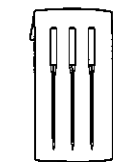
A：基本押さえ
(基本押さえは、ミシン本体に付いています。)



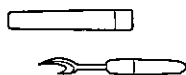
取扱説明書



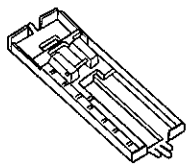
取扱説明 DVD



針 3 本
(HAX1 14)



シームリッパー

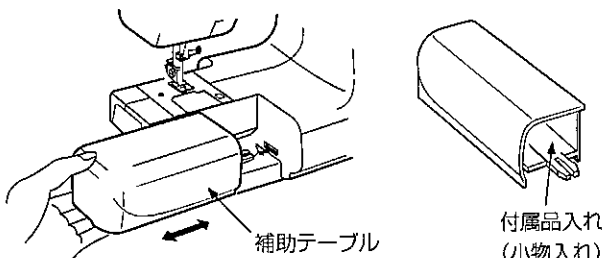


J：ボタンホール押さえ



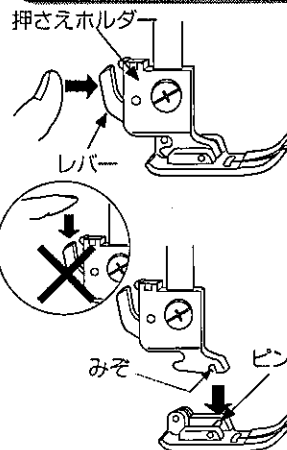
C：たち目かがり押さえ

フリーアーム



補助テーブルを横に引いて外すと、フリーアームになります。
そでぐちやすそなどのぬい、および、ふくろ物のくち端の始末に利用します。
補助テーブルは、小物入れとしても利用できます。

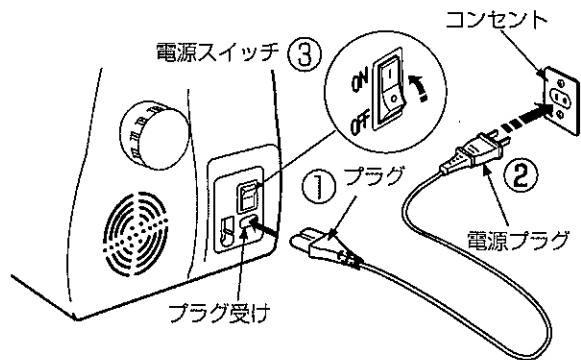
押さえの交換



① 押さえ上げをあげ、押さえホルダーのレバーを図のよううしろ側から手前に押して、押さえを外します。
※ レバーを上から押すと故障の原因になります。

② 押さえのピンを押さえホルダーのみぞに合わせて、押さえ上げを静かにおろします。

電源のつなぎ方

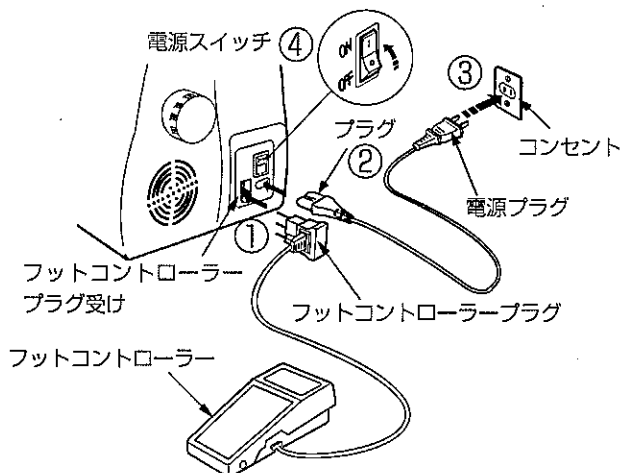


⚠ 警告

- ・電源は一般家庭用交流電源（100V 50/60Hz）です。
- ・ミシンを使わないときは、電源プラグを抜いてください。感電・火災の原因になります。
- ・電源プラグやプラグ受けのほこり等は取り除いてください。火災の原因になります。

【スタート・ストップボタンを使用するとき】

- ①電源スイッチを切って（OFF）から、プラグをプラグ受けに差し込みます。
- ②電源プラグをコンセントに差し込みます。
- ③電源スイッチを入れ（ON）ます。



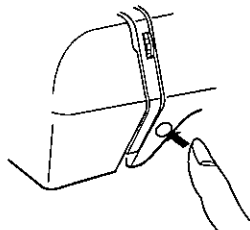
【フットコントローラーを使用するとき】

（フットコントローラーは、モデルにより別売りになります。）

- ①電源スイッチを切って（OFF）から、フットコントローラープラグをフットコントローラープラグ受けに差し込みます。
- ②プラグをプラグ受けに差し込みます。
- ③電源プラグをコンセントに差し込みます。
- ④電源スイッチを入れ（ON）ます。

※フットコントローラーを接続すると、スタート・ストップボタンは使用できません。

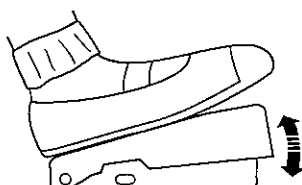
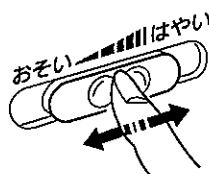
スタート・ストップボタン



ボタンを押すと、ゆっくり動き始めてからスピードコントロールつまみでセットした速さでぬい始めます。もう一度ボタンを押すと、針は、通常上位置で停止します。

※ スタートおよびストップのときボタンを押し続けている間（手をはなすまで）は、低速で動きます。

速さの調節



【スピードコントロールつまみ】

ぬう速さは自由にセットできますので、スピードコントロールつまみを、お好みの速さにセットしてください。

【フットコントローラー】

スピードコントロールつまみは「はやい」にセットしてください。

深くふむ.....速くなる

浅くふむ.....遅くなる

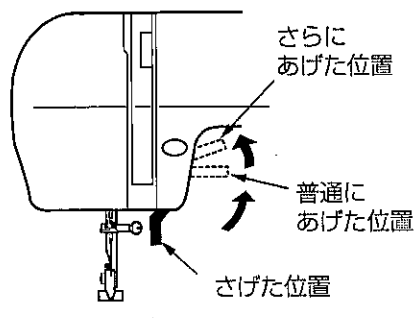
ふみ込みをはなすと止まります。

※ スピードコントロールつまみは、フットコントローラーをいっぱいふみ込んだときの最高速度を調節します。

⚠ 注意

フットコントローラーの上に物を乗せないでください。けが、火災の原因になります。

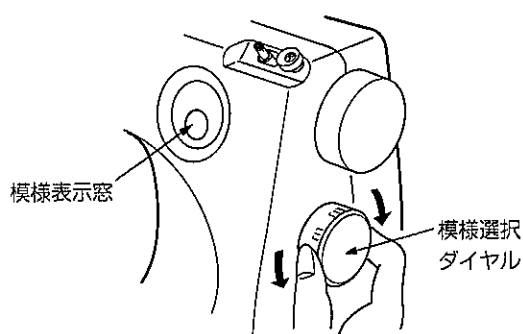
押さえ上げ



押さえ上げをさげると押さえがさがり、布地を押さええます。

※厚い布など布が入れにくいときには、普通にあげた位置よりさらにあげて入れます。

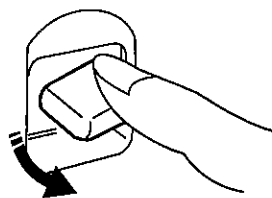
模様の選び方



針をあげて模様選択ダイヤルをまわし、模様を選びます。

※針が布にささったままで模様選択ダイヤルをまわすと、針が曲がったり、折れたりする原因になります。

返しぬいレバー



【停止中の返しぬい】

レバーを押すと、ゆっくり返しぬいを始めます。指をはなすと止まります。

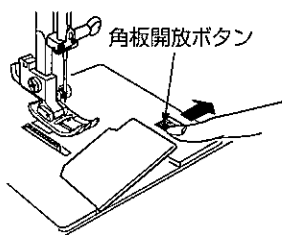
【運転中の返しぬい】

ミシンを運転中レバーを押している間は返しぬいをし、指をはなすと前進ぬいにもどります。

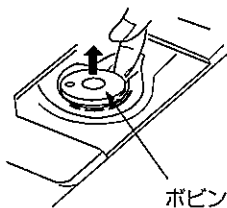
※返しぬいレバーを下に押したとき、返しぬいレバーが斜めになりますが、ミシンの特性によるものであり故障ではありませんのであらかじめご了承ください。

下糸の準備

★ボビンの取り出し

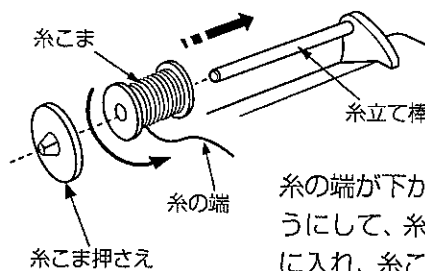


① 角板開放ボタンを右に寄せて、角板を外します。



② ボビンを取り出します。

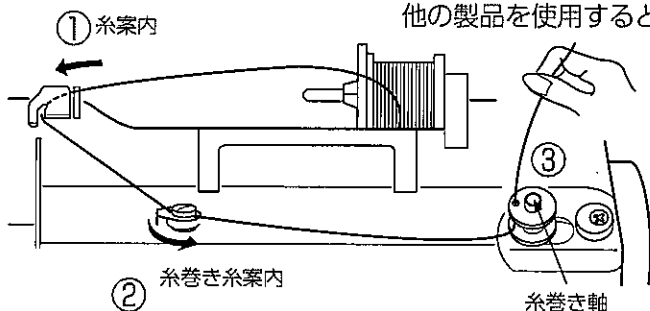
★糸こまのセット



糸の端が下から手前に出るようにして、糸こまを糸立て棒に入れ、糸こま押さえで糸こまを押さえます。

★ボビンに糸を巻く

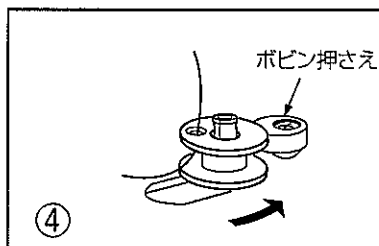
※スピードコントロールつまみは、「はい」にセットしてください。
※ボビンは必ず専用プラスチックボビンをご使用ください。
他の製品を使用すると故障の原因になります。



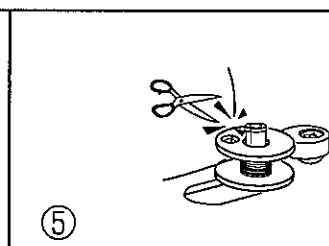
① 糸案内にかけます。

② 糸巻き糸案内にかけます。

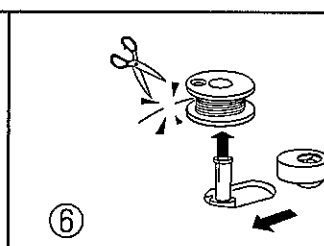
③ ボビンの穴に内側から糸を通し糸巻き軸に差し込みます。



④ ボビンをボビン押さえの方に押しつけます。



⑤ 糸の端をつまんだままミシンをスタートしてボビンに糸が2～3重ほど巻きついたら、ミシンを止めて、つまんでいる糸を切ります。

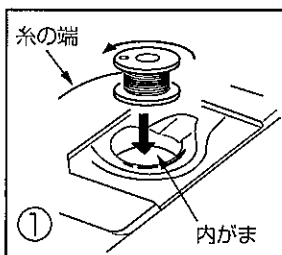


⑥ 再びスタートして、巻き終わったらミシンを止めます。糸巻き軸をもどし、ボビンを糸巻き軸より外し、糸を切ります。

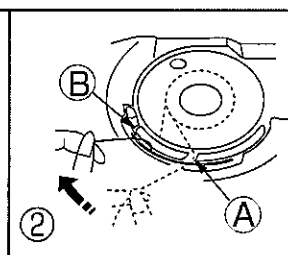
★ボビンのセット

⚠ 注意

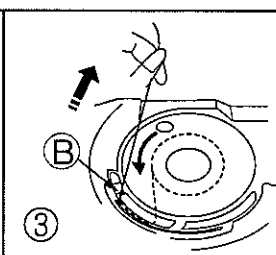
ボビンを内がまにセットするときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。けがの原因になります。



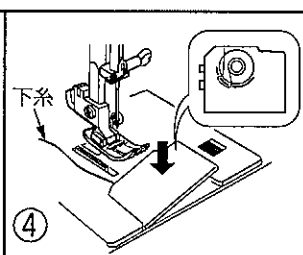
① 糸の端を矢印方向に出し、ボビンを内がまに入れます。



② 糸の端を引きながら、手前のみぞ(A)にかけます。糸を引きながら左へ移動させ、左側のみぞ(B)のところにします。



③ 糸を左側のみぞ(B)にかけようように、向こう側に出します。
※糸を引き出したとき、ボビンは反時計方向に回転します。時計方向に回転した場合、ボビンの向きを上下逆に入れかえます。



④ 下糸は、10cmくらい引き出して、角板を左側から合わせて、付けます。

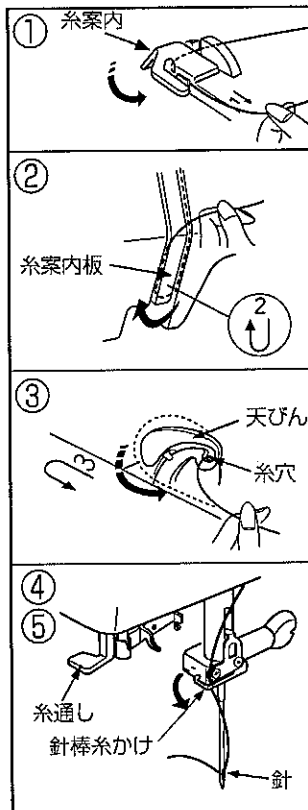
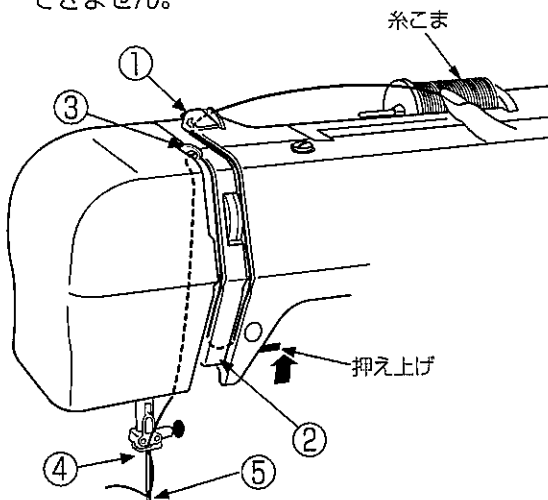
上糸の準備

★上糸のかけ方

⚠ 注意

上糸をかけるときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。
けがの原因になります。

※必ず押さえ上げをあげてから上糸をかけます。
押さえ上げをあげないと、正しい上糸かけができません。



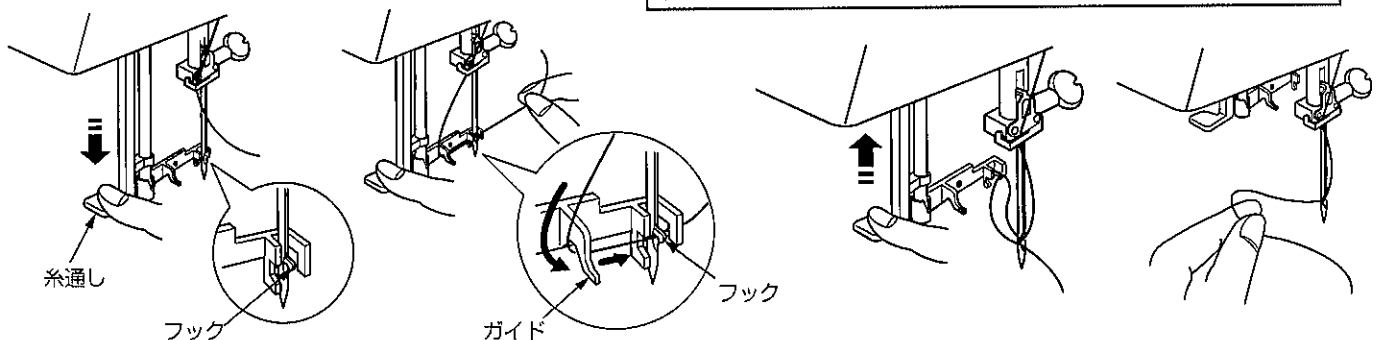
- ① 押さえ上げをあげます。糸を両手で持って糸案内の向こう側からかけます。
- ② 糸こま側の糸を押さえ、糸案内板にそっておろし、下をまわして左上に引きあげます。
- ③ 糸こま側の糸を押さえ、はずみ車を手前にまわし、天びんを上部にします。天びんには、右からうしろをまわして糸穴に入れ、まっすぐ下におろします。
- ④ 針棒糸かけに左からかけます。
- ⑤ 糸通しを使って針に糸を通します。

★糸通しの使い方

針は、11番～16番が使えます。
糸は、50番～90番が使えます。

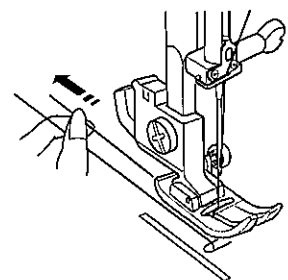
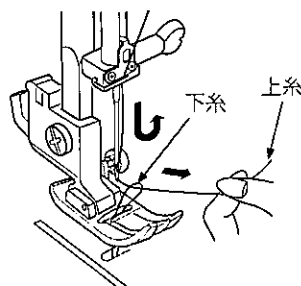
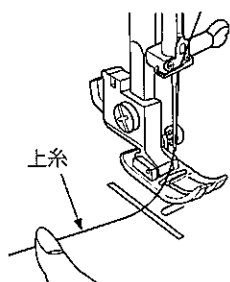
⚠ 注意

糸通しを使用するときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。けがの原因になります。



- ① 押さえ上げをさげます。針をいちばん上にあげます。糸通しをいちばん下までさげ、フックを針穴に入れた状態で保持します。
- ② 糸を左側からガイドとフックにかけます。糸がたるまないように、ななめ上に引っ張っておきます。
- ③ 糸を軽く持ち、糸通しつまみを静かにもどすと、糸の輪が引きあげられます。
- ④ 針穴から端を引き出します。

★下糸の引き上げ方



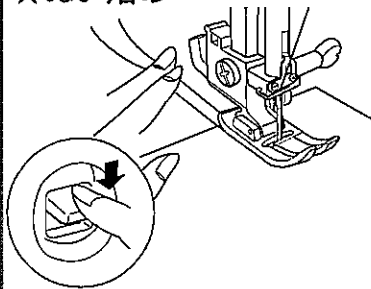
- ① 押さえをあげ、糸の端を指で押さえておきます。
- ② はずみ車を手で手前にまわし一回転させ、上糸を軽く引くと下糸の輪が引き出されます。
- ③ 上糸と下糸を押さえの下にして、うしろへそろえて約10cmくらい出します。

直線ぬい



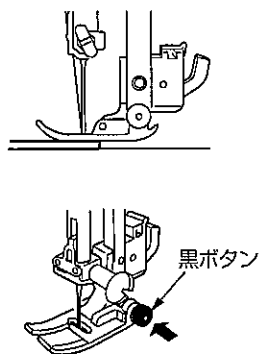
※模様は、ぬい目のあらかさが異なる3種類があります。

★ぬい始め



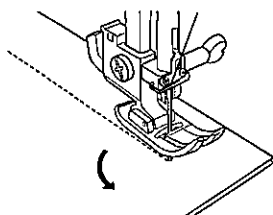
糸と布を押さえの下に入れ、はずみ車を手前にまわし、ぬい始めの位置に針をさします。押さえをさげて、ぬい始めます。
※ぬい始めのほつれ止めは、返しぬいレバーを使います。

★厚手の布端のぬい始め



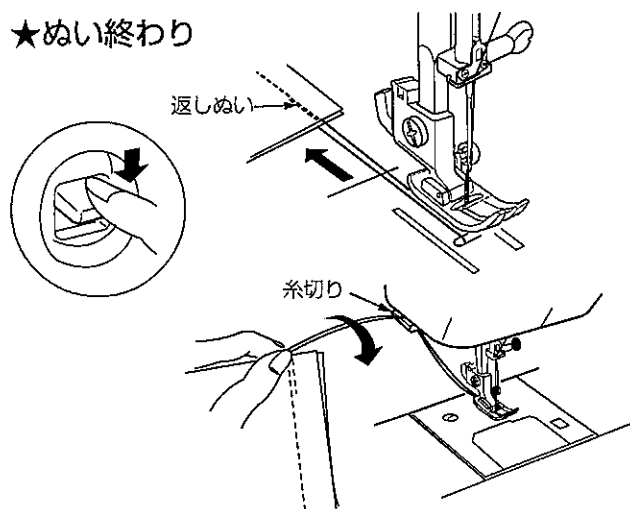
ぬい始めの位置に針をさし、基本押さえの黒ボタンを押し込みます。黒ボタンを押したままで押さえをさげます。黒ボタンから手をはなし、ぬい始めます。押さえが完全に布の上にとのると、黒ボタンの押し込みは自動的に解除されます。

★ぬい方向の変更



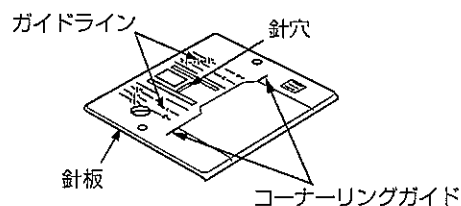
ミシンを止め、針を布に刺し、押さえをあげます。針をさしたまま、布をまわして方向をかえます。

★ぬい終わり



返しぬいレバーを押しながら数針返しぬいをします。ミシンを止め、押さえをあげて、布をうしろ側に引き出し、糸切りで糸を切ります。

★針板ガイドラインの利用

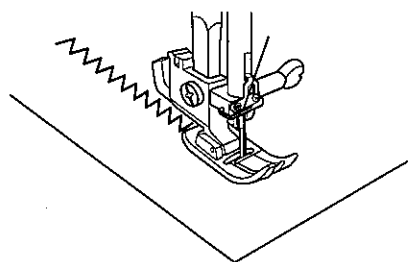
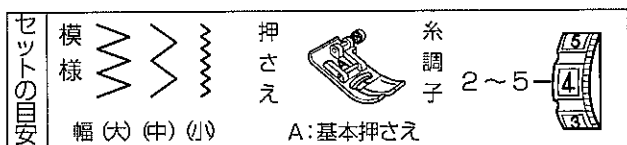


ガイドライン・・布端をガイドラインに合わせてぬうとぬい幅がそろいます。

数字	15	20	4/8	5/8	6/8
間かく (cm)	1.5	2.0	1.3	1.6	1.9

コーナーリングガイド・・布端がガイドのところきたらミシンを止め、針を布にさし、押さえをあげて布を回転させます。(針穴から1.6cmの位置です。)

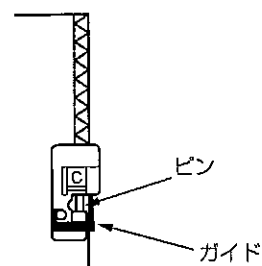
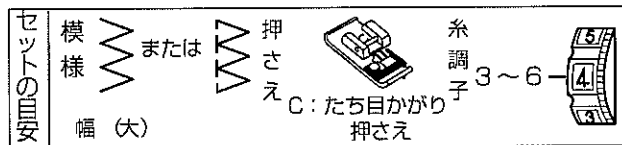
ジグザグぬい



伸縮性のある布（ニット、ジャージー、トリコットなど）には、芯地を貼るとききれいにぬえます。

※模様は、3種類あります。

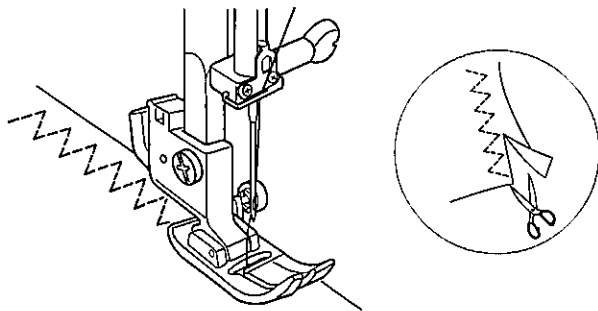
ジグザグぬいたち目かがり



布端のほつれ止めとして広く利用します。布端をガイドにあててぬいます。

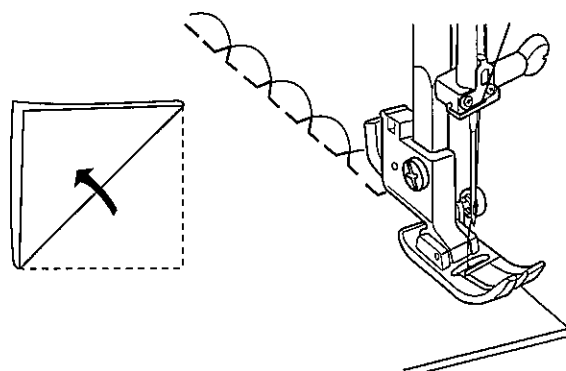
※ジグザグ模様を使用するときは、ジグザグ幅（大）を使用します。その他の模様を使うと針がピンにあたりけがの原因になります。

トリコットぬいたち目かがり



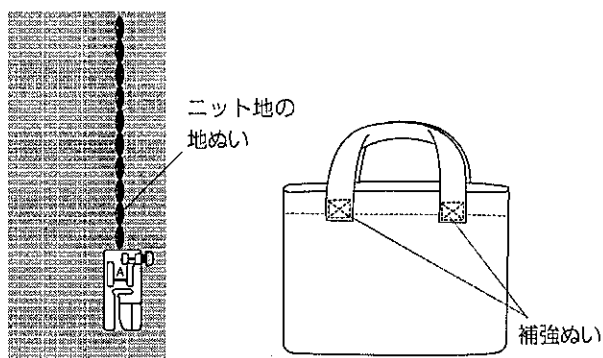
ほつれやすい布や、伸縮性のある布のほつれ止め、布端の反り防止などに利用します。ぬいしろを少し多めにとってぬい、余分なところをぬい目近くで切り落とします。

シェルタック



- ① 布をバイヤスに二つ折りにします。
- ② 針が右にきたとき、布の折り山のきわにのりるようにしてぬいます。

直線三重ぬい



厚地、ニット地の地ぬいや補強ぬいに使います。
※ぬい目が前後しますので、曲がらないように注意してください。

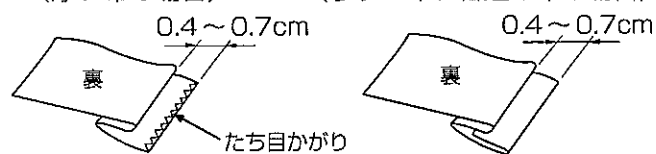
まつりぬい



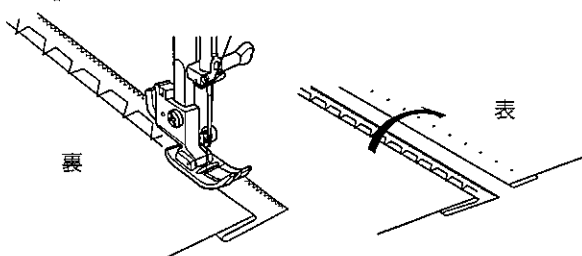
【布の折り方】

(厚い布の場合)

(うすい布、普通の布の場合)

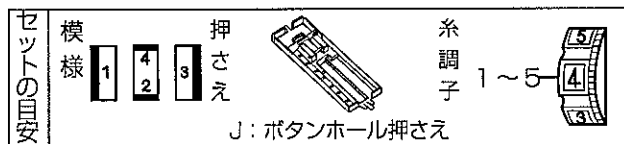


【ぬい】

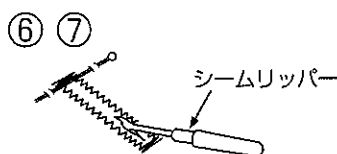
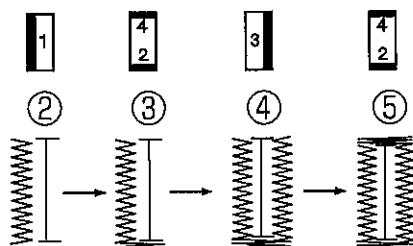
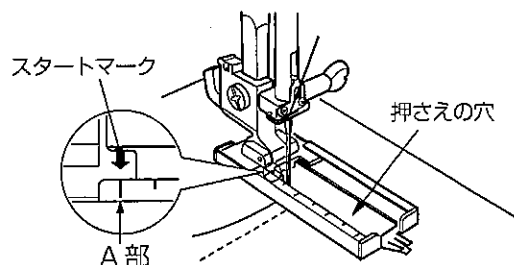


- ① 針がいちばん左にきたとき、布をおき押さえをさげてス
 - ② ぬい終わったら布を広げます。
- ※ 模様 は、伸縮性の布に利用します。
- スピードコントロールつまみは「おそい」にします。

ボタンホール



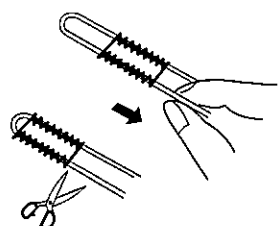
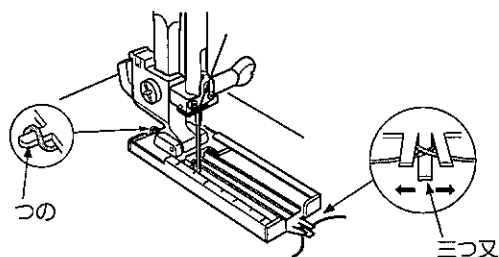
①



※ぬうものと同じ布で試しぬいをしてください。
※伸縮性のある布には、裏に伸びにくい芯地を貼ってください。

- ① 模様 1 を選びます。上糸を押さえる穴から通して下糸と一緒に横にそろえておきます。押さえを手前に引きスタートマークをA部に合わせます。
- ② ぬい始めの位置に針をさし、押さえをさげてミシンをスタートし、必要な長さまでぬってミシンを止めます。
- ③ はずみ車を手で手前にまわし、針をあげ、模様 4 を選びます。かんぬきを5針くらいぬいミシンを止めます。
- ④ はずみ車を手で手前にまわし、針をあげ、模様 3 を選びます。左側と同じくらいぬって、ミシンを止めます。
- ⑤ はずみ車を手で手前にまわし、針をあげ、模様 4 を選びます。かんぬきを5針くらいぬいます。
- ⑥ 押さえをあげて布を引き出し、上糸と下糸を10cmくらい残して切ります。上糸を布の裏に引き出し、上糸と下糸を結びます。
- ⑦ かんぬきの内側にまち針をさし、シームリッパーでかがった糸を切らないように中央部分を切りひらきます。

★芯入りボタンホール



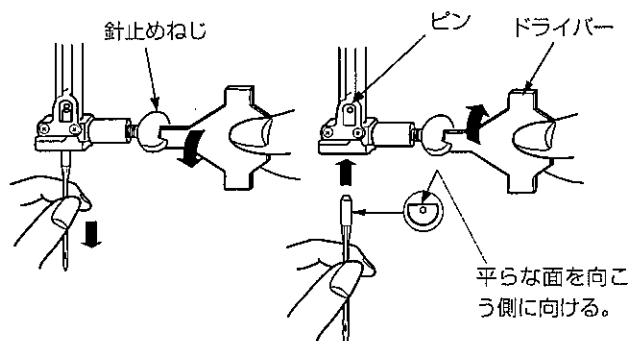
- ① 芯糸の輪を押さえるのうしろ側にあるつのにかけ、押さえるの下から手前に平行になるように引き出し、前側の三つ又にはさみます。
- ② ボタンホール手順と同じようにぬいます。
- ③ 左側の芯糸を引いてたるみをなくし、余分な芯糸を切ります。

針の取り扱い

★針の取りかえ方

△注意

針の取りかえは、必ず電源スイッチを切って電源プラグを抜いてから行ってください。けがの原因になります。



- ① 針止めねじを手前に1～2回まわしてゆるめ、針を外します。
- ② 針の平らな面を向こう側に向けて、ピンにあたるまで差し込み、針止めねじをドライバーでかたくしめます。

★布に適した糸や針を選ぶ目安

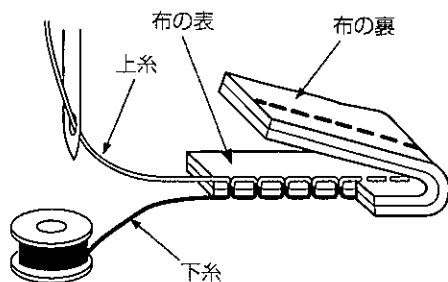
布	糸	針
うすい布	ローン ジョーゼット トリコット	ポリエステル90番 9番～11番
普通の布	シーチング ジャージー 一般ウール	絹糸50番 綿糸60番～80番 ポリエステル、ナイロン 50番～90番 11番～14番
		綿糸50番 14番
厚い布	デニム コート地 ツイード	絹糸50番 綿糸40番～50番 ポリエステル 40番～50番 14番～16番
		絹糸30番 綿糸30番 16番

- ※ 一般に、うすい布には細い糸と細い針を、厚い布には太い糸と太い針を使用します。この表を目安に針と糸を選び、ぬいたい布のはざれを使って試しぬいをしてください。
- ※ 原則として、上糸と下糸は同じものを使用してください。
- ※ 伸縮性のある布地（ジャージー、トリコット）や目とびしやすい布地などには、ジャンメプルー針（別売）を使用すると防止効果があります。
（市販オルガンSP針も同様の効果があります。）

糸調子の調節

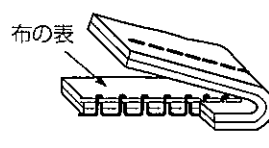
糸や布の種類によって糸調子のバランスがとれないときには、糸調子ダイヤルをまわして、上糸と下糸のまじわる位置を調節します。

【正しい糸調子】・・・上糸と下糸がほぼ中央でまじわります。



【上糸が強い場合】

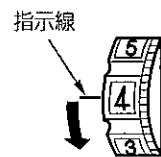
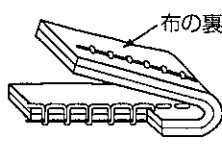
下糸が布の表に出ます。



上糸が強すぎるときは、糸調子ダイヤルをまわして、小さな数字を指示線に合わせます。

【上糸が弱い場合】

上糸が布の裏に出ます。



上糸が弱すぎるときは、糸調子ダイヤルをまわして、大きな数字を指示線に合わせます。

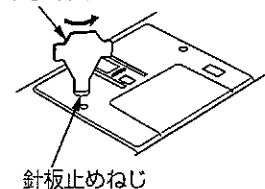
ミシンのお手入れ

★かまと送り歯の掃除

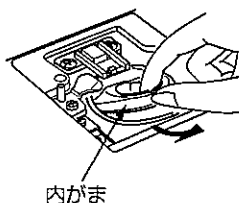
△注意

お手入れのときは、必ず電源スイッチを切って電源プラグを抜いてから行ってください。
また、説明されている場所以外は分解しないでください。
感電・けがの原因になります。

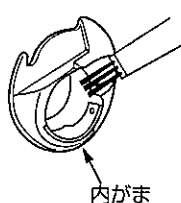
ドライバー



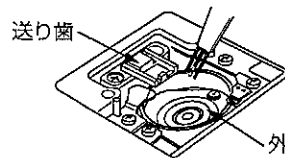
針板止めねじ



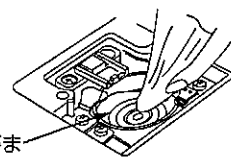
内がま



内がま



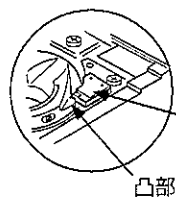
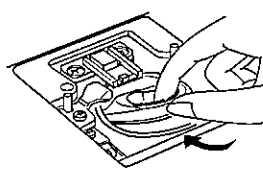
送り歯



外がま

- ① 針と押さえを外します。針板止めねじを外して、針板を外します。
- ② ボビンを取り出し、内がまの手前を上引きながら外します。
- ③ 内がまをブラシなどで掃除し、布切れで軽くふきます。
- ④ ブラシや掃除機で外がまと送り歯、およびその周辺の糸くずをとり、外がまを布切れで軽くふき掃除します。

★内がまと針板の組み付け

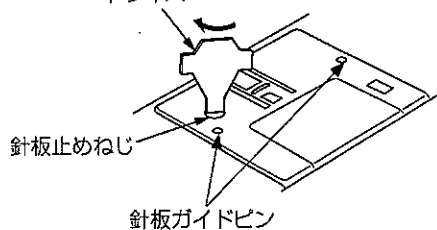


回転止め

凸部

- ① 内がまを差し込みます。
- ② 内がまの凸部を回転止めの左側におさめます。

ドライバー



針板止めねじ

針板ガイドピン

- ③ ボビンを入れ、2箇所の針板ガイドピンに針板ガイドの穴を合わせ、針板止めねじをしめます。

ミシンの調子が悪いときの直し方

調子が悪い場合	その原因	直し方
上糸が切れる。	1 上糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外の場所からみついている。 2 上糸調子が強すぎる。 3 針が曲がっていたり、針先がつぶれている。 4 針の付け方がまちがっている。 5 めい始めに、上糸と下糸を押さえの下にそろえて引いていない。 6 針に対して糸が太すぎる。	上糸を正しくかけ直す。 糸調子ダイヤルを弱める。 針を交換する。 針を正しく付ける。 上糸と下糸をそろえる。 適切な針や糸を選ぶ。
下糸が切れる。	1 下糸の通し方が、まちがっている。 2 内がまの中に、ごみがたまっている。 3 ボビンにキズがあり、回転がなめらかでない。	下糸を正しく通し直す。 内がまを掃除する。 ボビンを交換する。
針が折れる。	1 針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。 2 針止めねじのしめつけが、ゆるんでいる。 3 針を布にさしたままで、模様選択ダイヤルをまわした。 4 布に対して、針が細すぎる。	針を正しく付けるか針を交換する。 針止めねじをしっかりとめる。 針をあげてからダイヤルをまわす。 針を交換する。
めい目がとぶ。	1 針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。 2 布に対して、針と糸が合っていない。 3 伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ジャンメブルー針（市販SP針）を使っていない。 4 上糸のかけ方がまちがっている。	針を交換する。 適切な針や糸を選ぶ。 ブルー針を使う。（別売） 上糸を正しくかけ直す。
めい目がしわになる。	1 上糸調子が合っていない。 2 上糸と下糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分からみついている。 3 布に対して、針と糸が合っていない。	糸調子ダイヤルを調節する。 糸を正しくかけ直す。 適切な針や糸を選ぶ。
ミシンがまわらない。	1 電源のつなぎ方がまちがっている。 2 かまや天びんに、糸やごみが巻き込まれている。（このとき、ミシンの安全装置がはたらいて、モータを自動停止する。）	正しく差し込む。 かまや天びんの掃除をする。

修理サービスのご案内

- お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は内容をお確かめの上、大切に保管してください。
- 無料修理保証期間内（お買い上げ日より1年間です）およびそれ以降の修理につきましても、お買い上げの販売店が承りますのでお申し付けください。

修理用部品の保有期間

- 当社は動力伝達部品、および縫製機能部品を原則として製造打ち切り後8年間を基準として保有し、必要に応じて販売店に供給できる体制を整えています。

無料修理保証期間経過後の修理サービス

- 取扱説明書に従って、正しいご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過した後でも、修理用部品の保有期間内はお買い上げの販売店が有料で修理サービスをします。
ただし、次のような場合は修理できないときがあります。
 - 1) 保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。
 - 2) 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
 - 3) お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
 - 4) お買い上げ店、または当社の指定した販売店以外で修理、分解、または改造したために不調、故障または損傷したとき。
 - 5) 職業用等過度なご使用により不調、故障、または損傷したとき。
- 長期間にわたってご使用された場合の精度の劣化は、修理によっても元通りにならないことがあります。
- 有料修理サービスの場合の費用は必要部品代、交通費、およびお買い上げ店が別に定める技術料の合計になります。

お客様の相談窓口

修理サービスについてのお問い合わせやご不審のある場合は下記にお申し付けください。

蛇の目ミシン工業株式会社

〒193-0941 東京都八王子市狭間町1463番地

お客様相談室 TEL.0120-026-557（フリーダイヤル）
042-661-2600

受付平日9:00～12:00 13:00～17:00

（土・日・祝日・年末年始は除く）

ホームページ <http://janome.co.jp>

メールでのお問い合わせ customer@gm.janome.co.jp

仕 様	
使用電圧	100V 50/60Hz
消費電力	45W
外形寸法	幅35.4cmX奥行15.9cmX高さ25.4cm
重 量	5.5kg（本体）
使用針	家庭用 HA X 1
最高ぬい速度	毎分650針

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

